

## 〔長久手町業務評価票：平成19年度業務〕

課係NO・業務NO	□□□□-□□・□□	総合計画	4節 3項 総合計画 文化環境の整備
担当課・係名	文化の家 事業係 【問合せ・質問等の先 0561-61-3411】		

業務の名称	文化事業業務																																														
(1) 根拠法令・条例	長久手町文化マスタープラン																																														
(2) 当該業務量 (延人員規模含む)	総業務量の40% (係の総業務量を100%とする) 職員延人数：635人・日 (臨時雇用者延人数：100人・日)																																														
(3) 事業費 (人件費分を除く)	50,187千円 (平成19年度決算 (細目・細々目の実績から抽出・算定する))																																														
(4) 補助率 (補助金がある場合のみ記載)	3.3% (平成19年度実績)																																														
(5) 業務期間	開始した年度	10年度	終了 (予定) 年度	年度																																											
(6) 業務の概要 (簡潔に箇条書きで記載)																																															
① 業務目的 (達成目標)	芸術、娯楽、伝統文化を通して地域コミュニティや住民の日々の暮らしの中に文化的な潤いや豊かさを生み出すことを目的とする。																																														
② 業務が対象とする住民 (地域、層)	町内外の子どもから高齢者まで幅広い観客層の住民																																														
③ 業務の具体的な実施内容・方法 (平成19年度実績)	長久手町文化マスタープランに基づき、町民、専門家等により組織した企画委員会の企画会議を経て、教養、鑑賞事業、自主創造事業、提携事業、育成事業、交流事業を森のホール・風のホールおよびアトリビング棟の各諸室を使用し、舞台公演、美術展、映画、講座、ギャラリーコンサート、シンポジウムなどを実施した。																																														
④ 業務の実施結果 (平成19年度実績)	企画会議の内容を検討し、楽団、劇団、作家などの文化芸術団体および芸術家と目的に合致した出演交渉をすることにより、合計147本の文化事業を、7.3名の人員で効率よく行うことができた。全事業に対し、総数37,855名の観客動員および参加者を得ることができた。																																														
	<p>【業務結果の説明指標】 前年度に対する各事業別動員数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">結果の説明指標</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>19年度実績</th> <th>20年度目標</th> <th>将来目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>舞台系45事業の業務結果 (観客動員数19,290人)</td> <td>22,639</td> <td>17,639</td> <td>19,290</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>展示系10事業の業務結果 (観覧動員数11,326人)</td> <td>10,849</td> <td>6,107</td> <td>11,326</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>映像系12事業の業務結果 (観客動員数1,651人)</td> <td>1,461</td> <td>2,242</td> <td>1,651</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アウトリーチ系21事業の業務結果 (参加者数3,295人)</td> <td>1,329</td> <td>2,089</td> <td>3,295</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>講座とその他53事業の業務結果 (参加者2,293人)</td> <td>853</td> <td>1,661</td> <td>2,293</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						結果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標	1	舞台系45事業の業務結果 (観客動員数19,290人)	22,639	17,639	19,290			2	展示系10事業の業務結果 (観覧動員数11,326人)	10,849	6,107	11,326			3	映像系12事業の業務結果 (観客動員数1,651人)	1,461	2,242	1,651			4	アウトリーチ系21事業の業務結果 (参加者数3,295人)	1,329	2,089	3,295			5	講座とその他53事業の業務結果 (参加者2,293人)	853	1,661	2,293	
結果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標																																									
1	舞台系45事業の業務結果 (観客動員数19,290人)	22,639	17,639	19,290																																											
2	展示系10事業の業務結果 (観覧動員数11,326人)	10,849	6,107	11,326																																											
3	映像系12事業の業務結果 (観客動員数1,651人)	1,461	2,242	1,651																																											
4	アウトリーチ系21事業の業務結果 (参加者数3,295人)	1,329	2,089	3,295																																											
5	講座とその他53事業の業務結果 (参加者2,293人)	853	1,661	2,293																																											
⑤ 業務の成果 (業務目的の達成状況) (平成19年度実績)	舞台系、展示系、映像系事業の作品内容に対してアンケートを取り、大変良い66.9%、良い28.4%、普通3.5%、悪い1.0%でした。このようなアンケート結果から選定した作品は、住民に多様な文化事業を提供し満足を得ることができた。講座受講者は年々受講者が増え文化活動の資質を向上することができた。アウトリーチ系事業の参加者は、前年度に比べ36%増と需要が高く芸術鑑賞の機会を増やすことができた。																																														
	<p>【業務成果の説明指標：基本計画準拠】 17年度を100とした場合の前年度の観客増減率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果の説明指標</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>19年度実績</th> <th>20年度目標</th> <th>将来目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>舞台系事業の業務成果</td> <td>100</td> <td>22%減</td> <td>11%増</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>展示系事業の業務成果</td> <td>100</td> <td>43%減</td> <td>85%増</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>映像系事業の業務系成果</td> <td>100</td> <td>53%増</td> <td>26%減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アウトリーチ系事業の業務成果</td> <td>100</td> <td>57%増</td> <td>58%増</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>講座、その他事業の業務成果</td> <td>100</td> <td>94%増</td> <td>38%増</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						成果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標	1	舞台系事業の業務成果	100	22%減	11%増			2	展示系事業の業務成果	100	43%減	85%増			3	映像系事業の業務系成果	100	53%増	26%減			4	アウトリーチ系事業の業務成果	100	57%増	58%増			5	講座、その他事業の業務成果	100	94%増	38%増	
成果の説明指標		17年度	18年度	19年度実績	20年度目標	将来目標																																									
1	舞台系事業の業務成果	100	22%減	11%増																																											
2	展示系事業の業務成果	100	43%減	85%増																																											
3	映像系事業の業務系成果	100	53%増	26%減																																											
4	アウトリーチ系事業の業務成果	100	57%増	58%増																																											
5	講座、その他事業の業務成果	100	94%増	38%増																																											

(7) 遂行上の問題点、取組課題（箇条書きで簡潔に記載）
業務時間（開館時間9：00～22：00、月曜休館）の制限があり、事業に対し弾力的な対応ができないことがある。 職員異動により、培ったスキルが失われてしまう。

(8) 改善実績（過去3年間の実績）
改善点は特になし

(9) 業務の評価（自己診断）		
評価基準	評価の視点	五段階評価（5～1点）
①目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	3点
②コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	3点
③業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	3点
④住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	3点
⑤総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	3点
⑥他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	5点
		平均 3.3点

(10) 総合評価（課の見解）	
①今後の方向 （該当番号に○印）	1. 前年度と同じく、そのまま継続する。 2. 見直して継続（業務の拡大） 3. 見直して継続（業務の縮小） ④ 見直して継続（方法の改善） 5. 見直して継続（他業務と統合） 6. 廃止する。 7. 休止する。
②評価理由	全国の先進文化施設および世論の動向を見極め業務の執行を図り、住民がより参加し易いように改善する。

(11) 今後の目標・改善方針（具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること）
職員のスキルアップを促すことにより、業務の対応力を高める。 コストパフォーマンスの意識を高める。